第３章　小学校教員の教科書の使用状況

黒河内利臣
（武蔵野大学非常勤講師）

１　問題意識と分析の視点

本章では、教科書の使用頻度と、使用する・使用しない理由についてまとめる。

授業での教科書の使用頻度は必ずしも明らかではない。そこで、黒河内（2019）では、大学生を対象に過去の中学・高校時代に受講した科目での教科書の使用頻度を尋ねた調査をおこなっている。ただしこの調査には、大学生を対象にしていることから２つの問題点がある。まず、学校の教員を対象にした調査ではなく、学生の記憶にもとづいて使用頻度を明らかにしようとしたものであり、必ずしも正確な使用頻度を示したものではないこと、もう１つは大学進学した者が調査の回答者であることから、相応の学力が中学・高校時代にもあったことが前提となり、授業で先生が使用していなくても、自分で使用したことを含めて「使用した」と認識する可能性もあること、この２つがある。

本調査では、小学校教員を対象にデータを得ることでより実態に即した教科書の使用頻度を明らかにできる。ただし､教科書の使用頻度を尋ねた質問では､後述するように他の質問よりも「無答・不明」の割合が高く、かつどの科目にも一定数あるという問題点もあり、データの信頼度が若干劣ることは否定できない。しかし、教科書の使用頻度や使用する・使用しない理由について相応の規模でおこなった調査がないことから、本報告が後続の研究にとって予備的なデータにはなると思われる。そして本報告の目的は、教科書をより使いやすいものにすることで、子どもたちにとって最適な学習用の教材となること、さらにはどの子どもたちにとっても学習機会を担保しうる教材とすることを検討するにあたり、その議論のきっかけとなるようなデータを提示することである。

本報告は、以下の内容となる。まず、教科書の使用頻度（Ｑ３）を確認しよう。これは科目別に確認する。次に、科目別に使用する・使用しない理由（Ｑ４）についてまとめる。いずれも、科目別のクロス集計表を用いて、科目別に全体的な傾向の記述をおこなう。ただし、教科書の使用頻度と教科書を使用する・使用しない理由を分析すると非常に煩雑かつ膨大になることから、ごく簡潔な報告にとどめたい。

２　教科書の使用頻度

まず、科目別に教科書の使用頻度を確認しておこう。ここでは、「毎時間必ず使う」と「使わない時よりも使うことの方が多い」と回答された場合を「高頻度使用」とし、この割合の高い順に科目を並べ替えたものを掲載する（**表3-1**）。

表3-1　教科書の使用頻度（科目別／「毎時間」＋「使うことの方が多い」の割合の高い順）

	毎時間 必ず使う	使うこと の方が多い	使わないこと の方が多い	ほとんど 使わない	無答・ 不明	合計	N（人）
国語	79.3	14.0	0.4	0.7	5.6	100.0	763
道徳	73.7	17.2	1.3	0.9	6.9	100.0	763
算数	73.1	15.9	4.5	1.0	5.5	100.0	763
社会	60.7	21.1	3.7	1.6	13.0	100.0	763
音楽	56.7	24.9	4.2	0.9	13.2	100.0	763
外国語	64.4	16.3	2.6	2.5	14.3	100.0	763
理科	56.1	22.0	4.8	2.2	14.8	100.0	763
家庭	35.3	34.6	5.5	2.0	22.7	100.0	763
図画工作	17.0	33.4	33.0	7.3	9.2	100.0	763
体育（保健）	26.7	20.1	25.0	17.7	10.5	100.0	763
生活	15.5	28.4	26.1	5.8	24.2	100.0	763

使うことの方が多い…使わない時よりも使うことの方が多い
使わないことの方が多い…使う時よりも使わないことの方が多い

この割合について報告する前に留意することがある。他の質問と比較すると、このＱ３については「無答・不明」の割合が非常に高く、特に「生活」については24.2％もの教員がこの質問には回答をしていない（「不明」としたものも含む）が、他の質問項目と同様に、「無答・不明」も母数に含めた割合で分析を進めることにする[1]。

その結果、「高頻度使用」の教員が８割前後を超えた科目は11科目中７科目（割合の高い順：国語、道徳、算数、社会、音楽、外国語、理科）、７割以下にとどまった科目は４科目（家庭、図画工作、体育（保健）、生活）である。後者はいずれも、実技や実習、「調べ学習」などの形態の授業がおこなわれることが多い科目である。すると、そうではない科目、つまり実技や「調べ学習」などの形態の授業が比較的少ない科目では、教科書が使われる可能性が高いとみることもできる。

３　教科書を使用する理由・使用しない理由

１）全体的な傾向

科目別に使用する・使用しない理由についてみてみよう（**表3-3**、本章末）。この表では、多くの質問で肯定的見解の「とてもそう」「ややそう」と比較すると、否定的見解の「あまりそうでない」「ぜんぜんそうでない」の回答が少数であることから、肯定的見解の割合のみ掲載した。また、上述のように、科目ごとの詳細な割合は報告が微細かつ膨大になるために、得られた数値の報告は集計表にゆずり、報告も簡潔にとどめる[2]。

さて、全体的な傾向としては、以下のように２点にまとめることができる。

第一に、否定的な見解が少数であることから単純な比較はできないものの、①使用頻度が高いほうが「とてもそう」と積極的に肯定する傾向にあり、かつその割合が高いものと、②「ややそう」の消極的肯定が積極的肯定よりも多いものとにわかれる。

前者の①は「Ｑ４_Ａ　難易度が適切である」（使用頻度別ではなく全体の「とてもそう」と「ややそう」の合計：どの科目でも95％以上）、「Ｑ４_Ｂ　基礎、基本を網羅している」（同98％以上）、

「Ｑ４_E　学習指導要領の目標にもとづいている」（同99％以上）の３項目が該当する。この選択肢の文言のとおりに、使用している教科書は基礎・基本が網羅されていて、さらにそれは学習指導要領の目標に沿った内容であることから、国の目標に照らしても「ちょうどよい」と教員たちは認識している。

ただし、この中で「Ｑ４_A　難易度が適切である」については他の２項目と少し異なる傾向を示している。どの科目でも「とてもそう」（50％強）が「ややそう」（45％前後）よりも多数ではあるものの、その割合は拮抗している。基礎・基本が網羅されていることとは別の使いづらさがあることがうかがえる。

その「使いづらさ」を探る手がかりになるのが後者の②で、「Ｑ４_C　発展的な内容を含んでいる」（同80～82％強）、「Ｑ４_D　教材量が適切である」（同90～91％強）、「Ｑ４_F　どのようなレベルの子どもにも、使いやすいものになっている」（同80～82％強）、「Ｑ４_G　子どもの興味関心に適した内容を含んでいる」（同83～85％強）、「Ｑ４_H　現在使っている教科書に満足している」（同91～92％強）の５項目が該当する。ここでは詳細な割合の報告は割愛するが、使用頻度が高いほうが積極的に肯定する（「とてもそう」）割合が高いものの、「とてもそう」よりは「ややそう」の割合が（おおむね20～30ポイント）高い場合が多い。つまり、「そのとおりではあるが、全面的に賛成はできない」という評価にとどまるものとでもいえ、これが「使いづらさ」を感じる部分に相当するものと思われる。

たとえば、「毎時間必ず使う」教員の中でも「とてもそう」よりも「ややそう」とする割合が高い科目が多いのは、「教材量が適切」（Ｑ４_D）と「どのレベルの子にも使いやすい」（Ｑ４_F）、「子どもの興味関心に適す」（Ｑ４_G）の３項目である。基礎・基本が網羅されている一方で発展的内容については物足りなさも感じているし、教材量が適切かどうかや、現行の教科書が児童一人ひとりに合っているかの評価には差異がみられる。

第二に、上述のような肯定的な評価にも微細な差異があるものの、特徴的な傾向を総括的に示すと、科目を問わず「使用する・使用しない」理由の割合は大きな違いがみられないことがわかる。教科書を使うか使わないかは、科目の特性よりも教員個人の裁量によることが示唆される。すると、教員個人が接する児童たちの特性に応じて、教科書の使い方を変えていることになると推察される。これは大きく２つの分析をすることになる。第一に小学校では専科教員が一部にとどまること、第二に勤務校の特性に関連することについてである。以下、それぞれみていこう。

２）教科書の使い方を変えることについて

①小学校では専科教員が一部にとどまることに関連すること

まず、小学校では専科教員が一部にとどまることに関連することについてみてみよう。

本調査がおこなわれた2021年時点では、小学校の場合は中学・高校と異なり教員がほぼすべての科目を担当し、専科教員はごく一部にとどまるのが一般的である。本調査でも回答者763人中606人（79.4％）が専科教科を担当していない。一方、「無答・不明」（1.2％）を除く残りの２割（19.4％）は、１つまたは複数の専科教科を担当していると回答している。この結果をもとに、各科目で専科教科を担当していない教員（大多数）と特定の専科教科を担当していると回答した教員（ごく少数）との比較をおこなった。その結果を以下で報告するが、本調査に示された局所的な結果にすぎないことと集計表を割愛することをお断りしておく。なお、専科教科を担当していると回答のなかった生活と道徳以外の科目については、割合を比較しカイ二乗検定もおこなった。また、「教科書の使用頻度が高い」（高頻度使用群）とするのは、上述のように教科書を「毎

時間必ず使う」と「使わない時よりも使うことの方が多い」の回答をした場合とみなす。

その結果、専科教科担当教員数が少ないことから割合での比較は難しいので、主にカイ二乗検定の結果だけでみると、一般的な有意確率である５％水準で統計的有意差が確認されたのは「図画工作」のみで、10％水準と少しゆるやかに判断すると「外国語」（p値0.069）「家庭」（同0.058）の２科目も統計的有意差ありとみなせる。つまり、専科教科担当の有無によって教科書の使用頻度が異なるのが図画工作で、少しゆるやかに判断すると外国語と家庭も該当することになる。

この３科目について、専科教科担当の有無で割合を比較すると、図画工作と家庭は、専科を「担当していない」教員のほうが使用頻度が高い傾向がみられた。特に図画工作については、「担当していない」群で51.8％（「毎時間必ず使う」17.0％＋「使わない時よりも使うことの方が多い」34.8％）、「担当している」群で0.0％（回答なし）と顕著な差異がみられた。家庭は、図画工作と様相が少し異なり、全体としては高頻度使用群は７割程度（「担当していない」群69.2％：同34.2％＋35.0％、「担当している」群66.7％：同11.1％＋55.6％）であるものの、「毎時間必ず使う」とする教員が「担当していない」群のほうが多い。外国語も全体としては８割程度の教員は教科書の使用頻度が高いものの、家庭とは異なり「担当している」群のほうが「毎時間必ず使う」とする割合が12ポイント程度高い（「担当していない」群81.0％：同63.5％＋17.5％、「担当している」群75.0％：同75.0％＋0.0％）。ただし、この３科目いずれにも共通するのは、専科教科を担当していない教員は教科書を使う頻度が高い傾向にあることである。

一方、個々の科目の専科担当教員数が少ないため、それとは別に、科目を問わず何らかの専科教科を担当している教員（148人）と、専科教科を担当していない教員（606人）との比較もおこなった。これについても詳細な集計表等は割愛するが、専科教科を担当していない教員と、何らかの科目を専門に担当している教員との間で統計的有意差をみると、すべての科目で統計的有意差がみられなかった。しいていえば、以下の３科目については、「担当していない」群（専科なし群）と「担当している」群（専科あり群）とで８ポイント以上の差がみられた。ここで示す割合は、専科教科を「担当していない」群の「毎時間必ず使う」割合と「使わない時よりも使うことの方が多い」割合の合計値とそれぞれの割合、「担当している」群についても以下同じである。

国語：専科なし群95.0％（80.5％＋14.5％）＞専科あり群86.5％（74.3％＋12.2％）

理科：専科なし群76.5％（54.6％＋21.9％）＜専科あり群84.5％（61.5％＋23.0％）

※理科：専科なし群76.5％（54.6％＋21.9％）＜理科専科群91.3％（65.2％＋26.1％）

音楽：専科なし群83.3％（58.1％＋25.2％）＞専科あり群75.0％（50.7％＋24.3％）

上記の結果と合わせると、専科教科を担当していない教員のほうが教科書を使用する頻度が高い傾向がみえてくる。このうち理科については、統計的有意差はないものの、専科教科を担当していない教員よりも理科を専科として担当している教員のほうが15ポイントほど使用頻度が高い割合を示している。理科は他の科目と比較して何らかの特殊な要因があることがうかがえる。ただし、その点をさらに分析するための質問が本調査にはなく、分析ができない。

②勤務校の特性に関連すること

もう１つの、勤務校の特性に関連することについてみてみよう。これは、勤務校がどのような地域にあるのかによって、子どもの特性が変わり、それに合わせて教科書の使用頻度が変わることを想定した分析となる。その結果を示したものが、**表3-2**である。

表3-2 「学区特性」×教科書の使用頻度「毎時間必ず使う」割合（集計表から抜粋）

学区特性	農林漁業地域	工業地域	都市郊外の住宅地域	都市中心部の住宅地域	都市中心部の商業地域	その他
人数（人）	259	21	314	111	30	22
国語	78.4	76.2	83.1	73.9	80.0	68.2
社会	63.7	52.4	61.8	54.1	56.7	50.0
算数	74.5	76.2	75.2	67.6	73.3	54.5
理科	56.4	47.6	58.9	48.6	56.7	50.0
生活	14.3	23.8	16.2	16.2	10.0	9.1
音楽	57.1	61.9	58.3	47.7	63.3	54.5
図画工作	13.1	14.3	19.1	21.6	16.7	13.6
家庭	34.4	33.3	33.4	41.4	50.0	18.2
体育（保健）	23.6	28.6	29.3	27.0	26.7	22.7
道徳	73.0	76.2	75.8	72.1	73.3	54.5
外国語	63.3	66.7	67.2	61.3	63.3	50.0

単位：％

結果を報告する前に、この表の数値の読み方について説明しておこう。この表は、勤務校の学区の特性（Q19_4）別に各科目の教科書の使用頻度のうち「毎時間必ず使う」と回答した割合のみ抜粋したものである。たとえば、「農林漁業地域」の学校に勤務すると回答した教員259人のうち、「国語」で教科書を「毎時間必ず使う」と回答した教員が78.4％と読む。

さて、この結果をみる限りは、「このような学区（地域）では教科書の使用頻度が高い」などの一貫した傾向は見いだせず、単なる示唆にとどまる[3]。おおむね、科目別に「毎時間必ず使う」割合は同じような数値を示しており、特定の地域、または特定の科目で突出した割合が示されているわけでもない。あえて見いだすとすれば、「国語」「社会」「算数」「理科」の４科目は、「都市中心部の住宅地域」では他の地域よりも割合が低い一方、「都市郊外の住宅地域」での割合が他の地域と比較しても高い。また､回答者数は少ないものの「工業地域」では「社会」と「理科」の割合が低く、反対に「生活」での教科書の使用頻度が比較的高い。このように、都市部やその周辺と工業地域では教科書の使用頻度が若干異なることから、勤務校の学区の特性により、教科書の使用頻度が異なる可能性はある。

しかし、学区の特性別に教科書の使用頻度の明確な差異が確認されないとすれば、その差異は学区の特性、つまりその地域の子どもの特性によるものではなく、勤務校や教員の裁量による差異とみなせる。

そこで本項の最後に、教科書の使用頻度と、教科書を使用する・使用しない理由について、教員の性別や年齢も含めて、教員の属性による差異を簡潔に確認してみよう。

３）教員個人の属性との関連

教員の属性との関連としては、教員個人の年齢や役職、経験年数等により教科書の使用頻度が変わるものと推察できる。巻末の集計表をもとに「毎時間必ず使う」割合で比較した結果を簡潔に示しておく[4]。

・男性教員と女性教員とで比較すると、国語・社会・算数・理科・外国語で男性のほうが女性よりも割合が高い。道徳ではその反対に男性よりも女性のほうが割合は高かった。他の科目

では明確な傾向としては差異が確認できなかった。

・年齢別では、国語・算数では39歳以下（本調査では「29歳以下」と「30～39歳」）が40歳以上（同「40～49歳」と「50～60歳」）よりも割合が低く、社会・理科では、「29歳以下」がそれ以上の年齢の教員よりも低い。全体的には年齢が高いほうが、教科書の使用頻度が高い傾向にある。

・担任学年別では、低学年担任よりも高学年担任のほうが、「毎時間必ず使う」割合が高い。特に、１年生では割合が他の学年よりも顕著に低い（音楽・図画工作以外）。

・非管理職教員に限定して役職別にみると、「主幹教諭」が他の役職についている教員や役職についていない教員よりも、国語・社会・算数・理科・道徳・外国語で、割合が高い傾向にある。

このようにみると、教員個人の裁量としては性別や年齢以外にも、勤務校の中での担任学年や校務分掌により、教科書の使用頻度が異なることがうかがえる。

すると、その使用頻度の差異の要因として、教科書への評価も異なると思われる。ここでも簡潔に、巻末の集計表をもとに教科書を使用する・使用しない理由について、主に「とてもそう」と回答された割合でみておこう。

・性別により明確な差異があるのは、「発展的な内容を含んでいる」と「学習指導要領の目標にもとづいている」の２項目だけではあるが、「ややそう」の回答割合も含めると、差異はほとんどない。

・年齢による差異は、特に「難易度が適切である」と「基礎、基本を網羅している」、「どのようなレベルの子どもにも、使いやすいものになっている」、「子どもの興味関心に適した内容を含んでいる」の４項目で、39歳以下（上述）の教員が40歳以上（同）の教員と比較すると「とてもそう」と回答する割合が低い傾向がみられた。

・担任学年別では、特に１年生で教科書の使用頻度が比較的低い傾向がみられたものの、使用する・使用しない理由としては、学年間では単純な傾向は確認できない。

・役職別では、ここでも非管理職教員に限定し「ややそう」も含めて肯定的評価をみると、どの教員にとっても評価は高いものの、「とてもそう」に限れば、教務主任からは「難易度が適切である」と「基礎・基本を網羅している」の評価が比較的低い。一方で、主幹教諭からは「発展的な内容を含んでいる」と「教材量が適切である」の評価が他の役職の教員と比較すると低い。

このように、教科書を使用する・使用しない理由は、教務主任や主幹教諭についている教員に明確な傾向が確認されたものの、その他の役職は単純な傾向としては見いだしづらい。教科書の使用頻度は教員の属性による差異が確認された場合もあるが、それが教科書を使用する・使用しない理由とそのまま結びつくかは、詳細な分析にまつ必要がある。

４）教科書の使い方を変える要因

本節では、教員個人が接する児童たちの特性に応じて、教員個人の裁量で教科書の使用頻度を変えていることについて、さらに分析を進めてみた。その結果、専科教科を担当していない教員のほうが、専科教科を担当している教員よりも教科書を使用する頻度が高い傾向がみられた。ただし、理科についてはその反対に、理科の専科教員のほうが専科教科を担当していない教員よりも使用頻度が高い傾向もうかがえた。一方、学区の特性別に教科書の使用頻度の明確な差異は確認されなかった。差異が確認されたのはそれ以外の教員の属性で、性別や年齢、担任している学

年、校務分掌により、「毎時間必ず使う」割合が高い（低い）傾向が確認された。

これらの傾向をまとめると、教員個人が接する児童たちの特性に応じて教科書の使用頻度を変えているわけでもないともいえる。もちろん、児童の特性や勤務校の校区の特性により、指導法を変える、ひいては教科書の使用頻度を変えることが「ない」とする結果がみられたわけではない。より詳細に付記するならば、指導法は変えても、教科書の使用頻度を変えるとは限らない。実際に、担任している学年別では、低学年のほうが高学年よりも「毎時間必ず使う」割合が低い傾向が確認されている。

本調査の結果からは、教員の裁量により教科書の使用頻度が変わる要因として、児童の特性（学年）によるというよりも、教員個人の属性、特に年齢という経験年数や勤務校の中での担任学年や役職が関連していると思われる。そして、教科書を使用する・使用しない理由については、性別という生来の属性や一部の役職には関連性があるように見受けられるものの、明確な一貫した傾向までは見いだせなかった。

４　本章の知見と考察

１）本章での知見

本章では、教科書の使用頻度と、教科書を使用する・使用しない理由についてみてきた。特に、本章で主眼になるのは、教科書の使用頻度を明らかにするような大規模調査がないことからそのデータを示すことと、教科書を使用する・使用しない理由についても明らかにすることで、子どもたちにとって最適な学習用の教材にするための議論のきっかけにすることである。

まず、箇条書きで、本章での知見をまとめておこう。

・教科書の使用頻度では、実技や「調べ学習」などの形態の授業が比較的少ない可能性がある科目では、教科書が使われる可能性が高い。
・教員個人の裁量としては性別や年齢別での差異はあるものの、勤務校の中での担任学年や校務分掌により、教科書の使用頻度が異なることがうかがえる。
・科目を問わず「使用する・使用しない」理由の割合は大きな違いがみられないことがわかる。教科書を使うか使わないかは、科目の特性よりも教員個人の裁量によることが示唆される。
・使用している教科書は、基礎・基本が網羅されていて、さらにそれは、学習指導要領の目標に沿った内容が網羅されていることから、国の目標に照らしても「ちょうどよい」と教員たちは認識している。
・「基礎・基本が網羅されている」という認識がある一方で、発展的内容が含まれているかについては物足りなさも一定の教員が感じている。そのほか、教材量が適切かどうかや、「現行の教科書が児童一人ひとりに合っている」（「どのレベルの子にも使いやすい」と「子どもの興味関心に適す」）との評価は、積極的に肯定する割合が比較的低く、教員にとっての「使いづらさ」につながることが推察される。
・教務主任からは「難易度適切」と「基礎・基本網羅」以外で評価が比較的高い。一方で、主幹教諭からは「発展的内容あり」と「教材量が適切」の評価が他の役職の教員と比較すると低い。
・専科教科担当の有無によって教科書の使用頻度が異なるのが図画工作で、少しゆるやかに判断すると外国語と家庭も該当することになる。
・理科については、統計的有意差はないものの、専科教科を担当していない教員よりも理科を

専科として担当している教員のほうが15ポイントほど使用頻度が高い割合を示した。理科は他の科目と比較して何らかの特殊な要素があることがうかがえる。

・学区（地域）の特性別に教科書の使用頻度をみても、特定の地域で、または特定の科目で突出した割合が示されているわけでもなく、一貫した傾向は見いだせない。

総合すると、教科書の使用頻度と使用する・使用しない理由の差異は、教員個人の裁量によることがうかがえる。そして、教科書の使用頻度が低い場合があり、その原因として教科書への何らかの評価が低いことがあると推察できる。さらに、教科書自体は「基礎･基本を網羅している」ことや学習指導要領の基準を満たしていることなどへの評価は高いにしても、発展的内容や教材量、児童一人ひとりに合っているかなどは、評価がわかれた。この点が教員にとっての教科書の使いやすさの判断基準になっていると思われる。

そこで、教科書の「使いづらさ」について以下の２つの点について、上記の知見にまだ触れていない結果を加えて、使いやすい教科書にするための考察の手がかりと、今後の検討課題を示しておこう。

２）考察

①校務分掌により教科書の使用頻度が変わること

第一に、校務分掌により教科書の使用頻度が変わることに注目する。その要因として、教員個人の裁量のうち、児童の特性や勤務校の校区の特性よりも、教員の年齢（後述）や勤務校の中での担任学年や校務分掌による可能性があるとした。このうち、担任の学年により教科書の使用頻度が変わることについては、教員個人が担当する児童の特性に合わせているともいえ、教員個人の裁量によるとはいえ、教員の個人的な事情によるとは言いづらい。むしろ、教科書の使用頻度が低いのは職務上の何らかの理由にあると考えられる。その職務上の要因として、上述の知見で触れた主幹教諭と教務主任のそれぞれについて、若干の検討をしておこう。

主幹教諭については、教科書が「基礎・基本を網羅している」ことには他の役職の教員と比較してももっとも高い評価（「とてもそう」73.7％）をしている一方で、「発展的内容を含んでいる」ことについては47.4％が「あまりそうでない」と、他の役職の教員と比較してもっとも低い評価をしている。それと符合するように、教科書が「基礎・基本を網羅している」ことに「とてもそう」と高い評価をしている教員は、他の役職と比較すると最少（21.1％）であった。そして、教科書を「毎時間必ず使う」とする主幹教諭は、他の役職の教員と比較して、国語（84.2％）や算数（89.5％）では高い割合を示していたものの、他の科目ではむしろ割合は低いほうである。

主幹教諭は、管理職に比較的近い立場から、教科書が基礎・基本を網羅しているだけでは物足りず、もう少し発展的な内容を含めてほしいと感じている。使用頻度が高い国語と算数以外でも、これらの点が解消されれば主幹教諭にとっても使用頻度をさらに高められる、換言すれば「使いやすい」教科書になるものと推察される。

教務主任の場合は、「難易度が適切である」と「基礎・基本を網羅している」の評価が比較的低いことが示された。特に、「難易度が適切である」については「あまりそうでない」とする回答が7.9％あり、割合としては低いものの他の役職と比較するともっとも高い割合を示した。「とてもそう」と積極的に肯定する割合も、管理職教員と比較すると比較的低い（校長52.6％、副校長・教頭61.4％、主幹教諭68.4％、教務主任50.8％、その他の主任49.8％、役職についていない41.3％）。「基礎･基本を網羅している」の「とてもそう」の割合についても、校長、副校長･教頭、主幹教諭が７割強であるのに対し、教務主任、その他の主任、役職についていないについては７

割弱と、高い割合を示しているものの、管理職に近い役職かそうでないかで、割合が微妙に異なる傾向を示している。

まとめると、管理職に比較的近い立場からは、「基礎・基本は網羅されているものの、発展的内容はもう少し増やしてほしい」と評価されているが、一般教諭に近い立場からは、「基礎・基本が網羅されていることには積極的に肯定はしづらいが、発展的内容については比較的肯定的な評価もできる」と評価されている。

学校組織の中の役職として、主幹教諭、教務主任ともに、その他の教員に対して指導・助言をする立場にいるものの、それぞれの立場から上記のように見解がわかれるのは興味深い。しかし、「発展的内容」の具体的な内容は科目ごとにも異なるし、本調査ではその具体的な質問をしていないことから、これ以上の分析はできない。

②教科書の「使いづらさ」に関連すること

第二に、教員の年齢が高いほうが教科書の使用頻度が高い傾向にあることに注目する。これをふまえて、教科書を使用する・使用しない理由として、４項目で39歳以下（本調査では「29歳以下」と「30～39歳」）の教員が40歳以上（同「40～49歳」と「50～60歳」）の教員と比較すると「とてもそう」と回答する割合が低い傾向がみられた。その４項目とは、教科書の難易度に関連する「難易度が適切である」と「基礎・基本を網羅している」の２項目と、子ども一人ひとりに合っているかに関連する「どのようなレベルの子どもにも、使いやすいものになっている」、「子どもの興味関心に適した内容を含んでいる」の２項目である。割合は、ここでは必要最低限のみ示すことにしたい。

前者の教科書の難易度に関連する項目では、「難易度が適切である」（「とてもそう」の割合：39歳以下４割弱、40歳以上５割強）、「基礎・基本を網羅している」（同：29歳以下６割弱、30歳以上約７割）と、比較的若手のほうが難易度について、肯定はしつつも積極的に肯定できないとしている。

後者の子ども一人ひとりに合っているかについては、「どのようなレベルの子どもにも、使いやすいものになっている」（同：39歳以下25％前後、40歳以上30％前後）、「子どもの興味関心に適した内容を含んでいる」（同：39歳以下17～18％、40歳以上23.4％）と、全体的にも「積極的には肯定できない」としている中でも差異がみられた。

これらの結果から理由として推察されるのは、年齢による経験の差である。教科書の難易度をふまえて子どもたちに合った指導をできるかは、教員の指導力にも関連する。しかし、その理由として若手の教員には指導力がないとすることはできない。なぜなら、本章では詳細な検討はしないが、本調査の「最近の次のような教育改革に関して、賛成ですか、反対ですか」（Q15）では、多くの項目で比較的若い教員のほうが「賛成」とする割合が多いからである。それは、学校教育や授業に、新しいことを取り入れようとする意識のあらわれとみることができる。特に教科書の内容のみならず、学校教育で教える内容が社会の動向をふまえて増える傾向にあることを考えると、教える内容も含めて学校教育全体の中に新しいことを取り入れるための、授業・教材研究の時間を確保することが必要となる。もちろん、年齢の高い教員が学校教育や授業に新しいことを取り入れようとしていないということではないものの、比較的年齢の若い教員のほうが教科書の使用頻度が低いのは、教科書が必ずしもその時々の社会の動向や学校への期待に合っていないためとも考えられる。

それでは、比較的若手の教員とそうでない教員との間で、教科書を授業内で具体的にどのよう

に使用しているのか、さらに分析を進める必要もあるが、上述のように発展的内容とはどのようなことかは科目により異なることも含めて、本調査の質問項目にはないことから科目別に詳細にデータをとる必要もあり、この点については、本調査、ならびに本稿の限界を超える。

表3-3　科目×教科書を使用する・使用しない理由

		国語			社会			算数			理科		
		とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)
Q4_A. 難易度適切	毎時間必ず使う	54.2	43.3	605	55.5	41.3	463	54.3	42.8	558	56.8	40.9	428
	使うことの方が多い	32.7	60.7	107	40.4	57.8	161	38.8	56.2	121	42.3	53.6	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	46.4	50.0	28	35.3	58.8	34	48.6	48.6	37
	ほとんど使わない	20.0	60.0	5	0.0	91.7	12	12.5	75.0	8	17.6	76.5	17
	合計	50.6	46.1	720	50.5	46.5	664	50.3	46.2	721	51.5	45.5	650
Q4_B. 基礎・基本網羅	毎時間必ず使う	74.9	24.1	605	75.4	23.5	463	74.7	24.2	558	76.9	22.2	428
	使うことの方が多い	52.3	45.8	107	64.0	34.8	161	61.2	37.2	121	64.9	32.7	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	64.3	35.7	28	41.2	52.9	34	75.7	24.3	37
	ほとんど使わない	60.0	20.0	5	25.0	66.7	12	50.0	37.5	8	35.3	58.8	17
	合計	71.1	27.5	720	71.2	27.6	664	70.6	27.9	721	72.6	26.0	650
Q4_C. 発展的内容あり	毎時間必ず使う	32.7	50.6	605	33.5	51.0	463	32.1	50.7	558	34.1	50.2	428
	使うことの方が多い	15.9	54.2	107	22.4	53.4	161	21.5	56.2	121	22.0	54.8	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	21.4	46.4	28	20.6	50.0	34	13.5	54.1	37
	ほとんど使わない	40.0	40.0	5	16.7	75.0	12	25.0	25.0	8	29.4	47.1	17
	合計	30.1	51.1	720	30.0	51.8	664	29.7	51.3	721	29.7	51.5	650
Q4_D. 教材量が適切	毎時間必ず使う	42.3	50.7	605	43.6	48.8	463	43.0	49.6	558	43.7	48.4	428
	使うことの方が多い	18.7	66.4	107	24.8	63.4	161	22.3	63.6	121	29.2	59.5	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	25.0	67.9	28	23.5	70.6	34	27.0	59.5	37
	ほとんど使わない	20.0	40.0	5	16.7	58.3	12	0.0	62.5	8	23.5	64.7	17
	合計	38.5	53.1	720	37.8	53.3	664	38.1	53.1	721	38.5	52.3	650
Q4_E. 学習指導要領の目標に沿う	毎時間必ず使う	76.2	23.8	605	76.5	23.3	463	77.1	22.9	558	76.9	23.1	428
	使うことの方が多い	55.1	43.9	107	64.6	35.4	161	56.2	43.0	121	68.5	30.4	168
	使わないことの方が多い	33.3	33.3	3	67.9	32.1	28	58.8	35.3	34	70.3	29.7	37
	ほとんど使わない	80.0	20.0	5	50.0	50.0	12	75.0	25.0	8	52.9	47.1	17
	合計	72.9	26.8	720	72.7	27.1	664	72.7	26.9	721	73.7	26.0	650
Q4_F. どのレベルの子にも使いやすい	毎時間必ず使う	31.2	51.6	605	31.3	52.1	463	31.5	51.4	558	32.5	50.9	428
	使うことの方が多い	15.0	57.9	107	23.6	54.7	161	18.2	56.2	121	20.8	56.5	168
	使わないことの方が多い	0.0	33.3	3	14.3	60.7	28	17.6	55.9	34	35.1	40.5	37
	ほとんど使わない	20.0	40.0	5	0.0	58.3	12	12.5	62.5	8	11.8	64.7	17
	合計	28.6	52.4	720	28.2	53.2	664	28.4	52.6	721	29.1	52.2	650
Q4_G. 子どもの興味関心に適す	毎時間必ず使う	24.6	60.8	605	25.3	59.6	463	24.4	61.8	558	25.7	61.4	428
	使うことの方が多い	7.5	67.3	107	14.9	67.1	161	14.0	60.3	121	14.3	61.9	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	3.6	57.1	28	11.8	64.7	34	16.2	62.2	37
	ほとんど使わない	20.0	60.0	5	0.0	91.7	12	0.0	75.0	8	5.9	82.4	17
	合計	21.9	61.8	720	21.4	61.9	664	21.8	61.9	721	21.7	62.2	650
Q4_H. 教科書に満足	毎時間必ず使う	27.1	66.1	605	28.1	64.6	463	27.4	65.6	558	28.7	65.0	428
	使うことの方が多い	10.3	75.7	107	16.8	74.5	161	15.7	74.4	121	17.9	70.2	168
	使わないことの方が多い	0.0	66.7	3	10.7	75.0	28	8.8	70.6	34	24.3	62.2	37
	ほとんど使わない	20.0	40.0	5	0.0	83.3	12	0.0	75.0	8	5.9	82.4	17
	合計	24.4	67.4	720	24.1	67.8	664	24.3	67.4	721	25.1	66.6	650

		生活			音楽			図画工作			家庭		
		とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)
Q4_A. 難易度適切	毎時間必ず使う	75.4	22.9	118	56.6	41.1	433	63.1	33.8	130	61.3	37.5	269
	使うことの方が多い	48.4	47.5	217	43.7	51.6	190	52.9	44.7	255	47.7	50.4	264
	使わないことの方が多い	52.8	44.7	199	37.5	56.3	32	46.8	50.0	252	42.9	45.2	42
	ほとんど使わない	27.3	68.2	44	28.6	57.1	7	32.1	58.9	56	6.7	86.7	15
	合計	53.8	43.1	578	51.7	45.0	662	50.9	45.7	693	52.5	45.1	590

		生活			音楽			図画工作			家庭		
		とても そう	やや そう	全体 N(人)	とても そう	やや そう	全体 N(人)	とても そう	やや そう	全体 N(人)	とても そう	やや そう	全体 N(人)
Q4_B．基礎・基本網羅	毎時間必ず使う	89.0	11.0	118	76.2	23.1	433	86.9	13.1	130	80.7	18.2	269
	使うことの方が多い	69.6	29.0	217	70.0	27.4	190	70.6	27.8	255	68.9	30.3	264
	使わないことの方が多い	71.9	26.6	199	43.8	50.0	32	67.9	30.2	252	69.0	31.0	42
	ほとんど使わない	56.8	38.6	44	57.1	42.9	7	53.6	44.6	56	46.7	53.3	15
	合計	73.4	25.3	578	72.7	25.8	662	71.3	27.3	693	73.7	25.4	590
Q4_C．発展的内容あり	毎時間必ず使う	50.0	39.8	118	34.2	50.8	433	45.4	38.5	130	37.5	48.7	269
	使うことの方が多い	25.8	58.1	217	25.3	53.7	190	30.2	54.9	255	24.6	54.9	264
	使わないことの方が多い	26.6	49.7	199	18.8	37.5	32	23.8	54.0	252	16.7	50.0	42
	ほとんど使わない	22.7	54.5	44	14.3	71.4	7	23.2	51.8	56	33.3	53.3	15
	合計	30.8	51.2	578	30.7	51.2	662	30.2	51.2	693	30.2	51.7	590
Q4_D．教材量が適切	毎時間必ず使う	65.3	29.7	118	45.7	47.1	433	56.9	38.5	130	48.7	45.7	269
	使うことの方が多い	36.4	53.9	217	28.4	61.6	190	39.6	52.5	255	31.8	56.4	264
	使わないことの方が多い	31.2	59.3	199	12.5	65.6	32	32.9	56.7	252	21.4	66.7	42
	ほとんど使わない	25.0	63.6	44	14.3	57.1	7	14.3	69.6	56	33.3	46.7	15
	合計	39.6	51.6	578	38.8	52.3	662	38.4	52.8	693	38.8	52.0	590
Q4_E．学習指導要領の目標に沿う	毎時間必ず使う	85.6	14.4	118	77.8	22.2	433	81.5	18.5	130	78.8	21.2	269
	使うことの方が多い	76.0	23.5	217	68.4	31.1	190	72.5	27.1	255	70.8	29.2	264
	使わないことの方が多い	68.3	31.2	199	50.0	46.9	32	70.6	29.4	252	69.0	28.6	42
	ほとんど使わない	59.1	40.9	44	57.1	42.9	7	67.9	30.4	56	46.7	53.3	15
	合計	74.0	25.6	578	73.6	26.1	662	73.2	26.6	693	73.7	26.1	590
Q4_F．どのレベルの子にも使いやすい	毎時間必ず使う	50.8	41.5	118	34.2	50.1	433	43.1	43.8	130	39.4	48.3	269
	使うことの方が多い	26.7	54.4	217	20.5	56.3	190	29.4	55.7	255	21.2	57.2	264
	使わないことの方が多い	23.6	54.3	199	12.5	46.9	32	23.0	56.0	252	23.8	54.8	42
	ほとんど使わない	20.5	43.2	44	14.3	42.9	7	17.9	37.5	56	13.3	53.3	15
	合計	30.1	50.9	578	29.0	51.7	662	28.7	52.1	693	29.5	52.9	590
Q4_G．子どもの興味関心に適す	毎時間必ず使う	43.2	48.3	118	27.9	59.1	433	40.0	52.3	130	33.8	54.6	269
	使うことの方が多い	22.1	65.0	217	12.6	70.5	190	24.7	63.1	255	12.1	71.6	264
	使わないことの方が多い	13.1	69.3	199	9.4	46.9	32	11.1	67.5	252	9.5	54.8	42
	ほとんど使わない	13.6	56.8	44	0.0	71.4	7	10.7	58.9	56	20.0	73.3	15
	合計	22.7	62.5	578	22.4	61.9	662	21.5	62.3	693	22.0	62.7	590
Q4_H．教科書に満足	毎時間必ず使う	40.7	55.1	118	29.8	64.7	433	37.7	56.9	130	32.7	61.0	269
	使うことの方が多い	23.0	68.2	217	17.4	73.7	190	28.2	65.1	255	19.3	73.1	264
	使わないことの方が多い	18.1	73.9	199	6.3	62.5	32	16.7	73.4	252	19.0	64.3	42
	ほとんど使わない	15.9	68.2	44	0.0	71.4	7	16.1	66.1	56	13.3	66.7	15
	合計	24.4	67.5	578	24.8	67.2	662	24.8	66.7	693	25.3	66.8	590

		体育（保健）			特別の教科　道徳			外国語		
		とても そう	やや そう	全体 N(人)	とても そう	やや そう	全体 N(人)	とても そう	やや そう	全体 N(人)
Q4_A．難易度適切	毎時間必ず使う	68.6	30.9	204	54.8	42.0	562	57.0	40.1	491
	使うことの方が多い	41.2	54.9	153	36.6	60.3	131	34.7	62.1	124
	使わないことの方が多い	47.1	49.2	191	30.0	70.0	10	40.0	55.0	20
	ほとんど使わない	39.3	53.3	135	0.0	71.4	7	10.5	78.9	19
	合計	50.7	45.8	683	50.6	46.1	710	50.9	45.9	654
Q4_B．基礎・基本網羅	毎時間必ず使う	83.3	16.7	204	76.2	22.8	562	76.4	22.4	491
	使うことの方が多い	65.4	34.0	153	53.4	45.0	131	57.3	41.9	124
	使わないことの方が多い	71.2	26.2	191	40.0	60.0	10	70.0	30.0	20
	ほとんど使わない	57.8	39.3	135	28.6	42.9	7	42.1	52.6	19
	合計	70.9	27.7	683	71.0	27.6	710	71.6	27.2	654
Q4_C．発展的内容あり	毎時間必ず使う	40.2	44.6	204	34.0	49.1	562	33.6	50.1	491
	使うことの方が多い	21.6	58.8	153	15.3	58.8	131	19.4	56.5	124
	使わないことの方が多い	31.9	53.9	191	10.0	60.0	10	20.0	60.0	20
	ほとんど使わない	20.7	46.7	135	14.3	42.9	7	21.1	63.2	19
	合計	29.9	50.8	683	30.0	51.0	710	30.1	52.0	654

		体育（保健）			特別の教科　道徳			外国語		
		とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)	とてもそう	ややそう	全体N(人)
Q4_D. 教材量が適切	毎時間必ず使う	52.9	42.6	204	42.2	49.5	562	42.8	49.9	491
	使うことの方が多い	28.8	60.1	153	22.9	69.5	131	25.0	65.3	124
	使わないことの方が多い	38.7	53.9	191	10.0	80.0	10	20.0	65.0	20
	ほとんど使わない	23.7	61.5	135	0.0	57.1	7	15.8	57.9	19
	合計	37.8	53.4	683	37.7	53.7	710	37.9	53.5	654
Q4_E. 学習指導要領の目標に沿う	毎時間必ず使う	84.3	15.7	204	76.3	23.5	562	77.4	22.4	491
	使うことの方が多い	64.7	34.6	153	60.3	39.7	131	60.5	39.5	124
	使わないことの方が多い	69.6	30.4	191	50.0	50.0	10	70.0	30.0	20
	ほとんど使わない	65.2	33.3	135	57.1	28.6	7	57.9	42.1	19
	合計	72.0	27.5	683	72.8	26.9	710	73.4	26.5	654
Q4_F. どのレベルの子にも使いやすい	毎時間必ず使う	38.7	49.5	204	32.6	51.8	562	33.0	50.7	491
	使うことの方が多い	24.8	54.9	153	13.0	57.3	131	15.3	58.9	124
	使わないことの方が多い	25.7	56.0	191	0.0	80.0	10	30.0	65.0	20
	ほとんど使わない	20.0	50.4	135	14.3	28.6	7	5.3	57.9	19
	合計	28.3	52.7	683	28.3	53.0	710	28.7	52.9	654
Q4_G. 子どもの興味関心に適す	毎時間必ず使う	35.8	56.4	204	25.3	59.6	562	25.5	59.3	491
	使うことの方が多い	17.6	64.7	153	9.9	69.5	131	9.7	70.2	124
	使わないことの方が多い	19.4	66.5	191	0.0	70.0	10	15.0	65.0	20
	ほとんど使わない	8.9	58.5	135	0.0	71.4	7	5.3	84.2	19
	合計	21.8	61.5	683	21.8	61.7	710	21.6	62.2	654
Q4_H. 教科書に満足	毎時間必ず使う	34.8	61.8	204	27.2	64.6	562	27.9	65.4	491
	使うことの方が多い	24.8	67.3	153	16.0	77.1	131	15.3	74.2	124
	使わないことの方が多い	19.9	70.2	191	0.0	90.0	10	10.0	80.0	20
	ほとんど使わない	14.1	71.1	135	0.0	57.1	7	5.3	78.9	19
	合計	24.3	67.2	683	24.5	67.2	710	24.3	67.9	654

〈注〉

1　「無答・不明」の割合が多い理由は推察にとどまるが、教科書を授業で使用することが義務化されているにもかかわらず使用頻度が低い場合は回答がしづらかったことや、回答時点で管理職のために回答ができなかったことなど、さまざまには考えられる。

2　表が複雑なので、２つほど読み方の例をあげておこう。たとえば、「国語」で「毎時間必ず使う」と回答したのは（本調査の回答者763人中、教科書の使用頻度の質問に無答・不明だった43人を除いた）720人中605人いて、その605人のうち「Ｑ４_A　難易度適切」に「とてもそう」と積極的に肯定したのは54.2％いたと読む。また、「社会」で「使うことの方が多い」と回答したのは（同763人中、教科書の使用頻度の質問に無答・不明だった99人を除いた）664人中161人いて、その161人のうち「Ｑ４_C　発展的内容あり」に「ややそう」と消極的に肯定したのは53.4％いたと読む。

3　そこで次は、この学区の特性と教科書を使用する・使用しない理由との関連性についてみたいのだが、上述のように多くの質問で肯定的見解の「とてもそう」「ややそう」が大半を占めるためか、地域ごとにも明確な差異はうかがえなかった。結果の報告自体も非常に煩雑になるため、本稿では割愛する。

4　いずれも、「毎時間必ず使う」の割合で比較し、５ポイント程度の開きがある場合でみた。

〈参考文献・参考資料一覧〉

黒河内利臣（2019）「学校教科書の使用頻度と成績との関連性―大学生対象の質問紙調査をもとにした分析―」『公益財団法人教科書研究センター若手研究者に対する教科書等調査研究費助成事業 論文集』pp.129-148